

[5月度例会] 日時：2017年5月11日 18:00～20:00 於：近畿本部会議室

「絵葉書と新聞広告でトイレを語る」～立小便から有料トイレまで～

講師：ごみ文化・歴史研究会 山崎 達雄 氏（元亀岡市副市長）

1. はじめに

一昨年「ごみ焼却の近代史」に続いて、立小便と有料トイレを含めて、「トイレの近代史」。昨年7月に『ごみとトイレの近代誌』。10月に、『ニッポン再発見 トイレ』（共著）を刊行。

2. 現代のトイレ革命と水洗便所

温水洗浄便座、家庭での普及率は80%を超え、商業施設やホテル等は勿論、「汚い便所」の代名詞であった駅等にも登場。近代化の象徴として、便所の水洗化は何時頃から始まったのか。

3. 近世までの便所

古代にも、溝から水をひく水洗便所はあったが、便を埋める土坑式、また、路上が排泄場所。近世の洛中洛外図等には、汲取り式の便所が描かれている。

4. 滑稽新聞と絵葉書世界

明治後期に宮武外骨が創刊した『滑稽新聞』や増刊付録『絵葉書世界』で、当時の排泄風俗を知ることができる。「女学校便所」、「三番叟」、「親の恩」、「寝小便を直す呪」、「廃物の排泄」、「野路のゆばり」の絵葉書は、秀作ばかり。当時は、屎尿を肥料として利用するポットン便所。

5. ポットン便所と改良便所

ポットン便所は、コレラ病と寄生虫病の蔓延の温床。改善策として、城口式や内務省式の改良便所が考案、普及が図られるが、汲取った屎尿を肥料として活用するので、改善には限界。

6. 水洗便所

水洗便所には、汚物を流す=水道の普及、汚物を処理する=下水道の普及、尻を拭く=トイレットペーパーの普及が必要。京都では、明治45年に蹴上浄水場が完成、大正後期には水道の普及率が50%を超えたが、下水道は、昭和9年の吉祥院下水処理場の最初。

7. 水槽便所と腰掛便器

水道と下水道の普及の溝を埋めたのが水槽便所。大正10年に東京の警視庁で初めて規制。住宅を中心に水槽便所の設置が広がるに従い、全国で規制。腰掛便器も、大正初期に国産

化。

8. 尻を拭く材料トイレットペーパー

日本で最初にトイレットペーパーが使用されたのは明治末。昭和初期には、『京都日日新聞』に広告が登場し、この頃から利用が広がる。日本でのトイレットペーパーの製造開始は、大正末、神戸の島村商会が通説。現物のトイレットペーパーもある。水道や下水道の普及、トイレットペーパーの使用からみて、水洗トイレは昭和初期に登場した。

9. 有料便所

日本の有料便所は、近世の貸便所がルーツ。近代的な有料便所は、明治36年に大阪天王寺で開催の第五回内国勸業博覧会の有料便所が最初。人が多く集まる博覧会には設けられたが、博覧会の入場料と比べて高く、不入り。昭和22年に、京都の四条木屋町に有料トイレ「四条トアレ」、林扶美子の遺作「めし」にも登場する大阪駅前に梅田トイレが誕生。排泄だけではなく、多様の機能を有し、設備的にも、現代の有料トイレと遜色がない。映画館入場料程の値段。

10. 立小便

立小便は近世では当たり前風俗。明治になると、外国人に日本の恥として、横浜で初めて規制。「軽犯罪法」のルーツにあたる「違式誹違条例」が、明治5年に東京で制定、その後、全国に規制が広がる。条例の内容をわかり易く解説した図解も作成される。

11. まとめ

これからもトイレや排泄の珍しい絵葉書等を蒐集し、トイレの近代化の歩みを調べていく。